久遠塾

君の世界に芽生えるものは

vol.13

かみうち　ともひで
上内　智英

今回は、前年度まで久遠塾の塾長を務め、現在は白糠高校で「地域・教育コーディネーター」を務めている上内智英さんにコーディネーターの仕事と白糠高校の様子について話してもらいました。

コーディネーターとは？

「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を、学校と地域社会が共有する時代になりました。「コーディネーター」は一言で言うと、学校と地域の「つなぎ役」です。多様な人と人をつなぎながら、高校と地域の魅力を形にしていく存在だと私は思っています。

コーディネーターの仕事は大きく3つ。1つ目は学校と地域社会の協働体制づくりです。授業において「地域の方の力を借りて、生徒の学びを深めたい」と先生方からの声があれば、仲介役を務めます。

2つ目は、生徒と地域をつなぐ探究的な学びをつくることです。特に地域学（白糠学）に関わる「総合的な探究の時間」では、地域の方との協力が不可欠です。白糠学の探究活動がより深まるように、授業のサポートにも入っています。

3つ目は、町内の小中高連携や地域社会における学びの環境を整えることです。地域の方と高校生、小中学生と高校生が一緒に学べる場づくりを進めていきます。

3年目を迎えた久遠塾

これまで勤めていた久遠塾と高校をつなぐことも仕事の一つです。開塾当時1年生だった生徒が3年生になりました。大学受験を目指す生徒、実用英語技能検定（英検）や実用数学技能検定（数検）、情報処理検定、簿記実務検定、電卓実務検定など、さまざまな資格の取得にチャレンジする生徒、数学の弱点を克服したいという生徒。いろいろな考えをもった生徒が塾に通っています。公民館の3階で始まった久遠塾でしたが、白糠高校内に昼休みと放課後に利用できる場所（放課後スペース）ができました。放課後スペースができたことで、高校と塾の連携はさらに進み、今では塾のスタッフが高校の授業に入り、先生と塾スタッフとの2人体制で、授業を行うことが多くなっています。

新しい学びのスタイル

新型コロナウイルスの影響で、新学期が始まって1週間経たないうちに休校になりました。これから先、再び休校になることを想定して、白糠高校ではICT（情報通信技術）を活用した授業が行われています。ICT教育は、インターネット環境とパソコンやタブレットなどの端末があれば、世界中のどこにいても授業が受けられるものです。タブレットを用いて意見交換する授業では、真剣に取り組む生徒の姿が見られました。「総合的な探究の時間」では、探究活動を行うときに必要な情報の収集、地図の活用方法について、コーディネーター自ら授業で話す機会をいただきました。

白糠高校生の元気な姿は、高校のホームページ（http://www.shiranuka.hokkaido-c.ed.jp/）から見ることができます。

「総合的な探究の時間」の一環で「校歌の場所を巡る」授業。上内智英コーディネーターが授業を行いました。